

美しい石垣が400年の歳月を超え
わが国屈指の山城は今にその姿を伝える

竹田城跡

竹田城跡



竹田城跡 ● TAKEDAJOUSEKI

石垣の美しさを400年の歳月を超えて、今に伝える和田山町・竹田城跡。東方の小高い所から眺めると、南方を頭にして北方にかけて長々とふせている虎の姿態に似ているところから、別名「虎臥城」とも言われ、人々に親しまれている。昭和18年、国の史跡に指定された。竹田城の築城時期については、現在のところ確かな史料はなく、嘉吉3年(1443)山名持豊(宗全)によって築かれ、太田垣光景が初代城主に任ぜられたとする口碑を残すだけである。

この竹田城築城の前後には、但馬守護山名氏と播磨守護赤松氏との間に深刻な対立が生じ、しばしば軍事衝突が繰り返されていた。このような社会情勢の中で築かれた竹田城は、播磨・丹波・但馬の交通上の要であった。更には、城郭として有利な地形の男山(独立した山のこと。他の山とつながっている山を女山という)であることから、攻守の拠点として重要な位置をしめたものと推測される。

混沌とした戦国時代が終わりを告げ、天正13年(1585)7月、関白の位を得た豊臣秀吉は支配体制の強化をはかって、大名の配置換えをおこない、竹田城には赤松広秀が配置された。

慶長5年(1600)9月、天下分け目の戦い・関ヶ原の合戦は、東軍・徳川家康の勝利となった。西軍に属した竹田城主・赤松広秀は敗者の一人となったが、その後、徳川方として鳥取城を攻め、戦功をあげたにもかかわらず、城下に火を放つたと責めをおって、鳥取市内にある真教寺境内で自刃したといわれている。この時、但馬の民衆は広秀の死を悼み、八鹿町大森に「腕塚」をつくり、毎年11月27日〜28日には祭祀がおこなわれたという。城主を亡くした竹田城は取りつぶしとなった。

ところが、竹田城落城から200年たった寛政10年(1798)、江戸より「虎臥大明神」の額が届けられ、赤松広

秀を神として祀ることが許されるようになった。この額は現在も地元で保管されており、毎年4月28日に祭祀がおこなわれている。

日本で城といえば、大規模な石垣や雄大な天守閣を持つ大阪城や姫路城を思い浮かべる人が多いだろう。このような城は、織田信長や豊臣秀吉が活躍した安土桃山時代から江戸時代にかけてつくられたものである。南北朝時代から戦国時代の激動期につくられ使用されたのが、山を中心とした「山城」である。「山城に立てこもる」という言葉が示すように、城は本来敵の攻撃に備えて山に立てこもり、そこで戦いをする防御施設なのである。

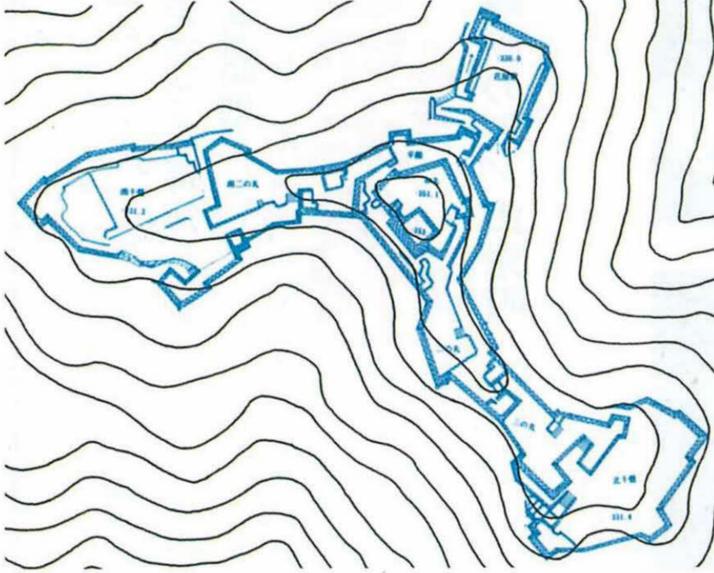
竹田城の特徴は何といっても、完存する総石垣造りの遺構の見事さにある。古城山の地形を巧みに利用した縄張り(平面プラン)は、天守台を中心にして尾根の三方向に「北千畳」・「南千畳」・「花屋敷」を配置し、精緻でかつシンプルに完成したわが国屈指の雄大な山城として知られている。但馬にもたくさん山城があつたが、総石垣の山城は竹田城だけである。

特に伝統的な古式穴太積みの石垣は見応えがある。穴太積みとは、築城の石工集団「穴太衆」(近江国穴太の里の人々。現在の大津市坂本町)の石垣の積み方という。安土城築城以後、石積みの専門家として各大名に招かれ、伏見、姫路、彦

花屋敷側から見た竹田城鳥瞰図「史跡竹田城跡」



古城山地形復元図「史跡竹田城跡」



但馬遺産 ● 竹田城跡 ● TAKEDAJOUSEKI



桜が満開の竹田城跡

自然の形を生かした穴太積み石垣



和田山町竹田の町並みは景観形成地区に指定され、城下町・宿場町の面影を今に残している



平成13年夏オープン予定の「山城の郷」イメージパース



根、江戸、篠山、名古屋、大阪、広島、高知、金沢などに出向いて重用された。穴太積みの特徴は、加工を加えない自然のままの石に面、いわゆる「野面」を用いて石垣の面をつくることである。奥行きのある石を使い、奥には「栗石」といわれる小石を多く詰め込み、水はけをよくし堅固さにも優れている。石を積むときは凶面をつくることなく、石の姿をよく覚えておき、石の声を聞きながら、面が合うところから積んでいくという。大きな石が適当に配されて、全体の支えとなり美しい石垣を生みだしている。

祖先が残してくれた貴重な文化遺産・竹田城跡を、どのように後世へ伝えていくのか。保存の取り組みとして、史跡指定地の拡大や城跡まわりの用地を公有地化し、もっと広い範囲の発掘調査の実施や計画的な保存・整備のための

対策が考えられている。和田山町に住む人々も地域シンボルとして竹田城跡を残していこうと、昭和61年「竹田城跡保存会」が民間組織として結成された。現在会員は約140名、竹田城跡の学習や会報の発行など保存・整備の推進にむけて、実践・協力しながら活動している。

また、自分たちのまちを勉強しアピールしていこうと「ボランティアガイドの会」が平成13年4月に発足する。竹田城跡へ登るとき、ガイドを頼むと楽しく案内してくれる。問い合わせ、申し込みは和田山町観光センター
TEL0796(74)2120まで。

平成13年夏には、「山城の郷づくり」事業の主要施設であるレストランと特産物加工施設が、竹田城跡のふもとにあたる和田山町安井地区、殿地区にオープンする。レストランは戦国時代をイメージした和風の外観で、伝承料理研究家の奥村彪生^{あやお}さんの助言で、地元食材を生かした料理を出す。加工施設では、豆腐、コンニャク、みそなどの地元特産品を製造販売する予定だ。

竹田城跡を守り、知ってもらうための地元の人々の試みが着実に実行に移されていく。竹田城跡を愛する人々の熱意が伝わってくるようだ。四季折々の美しさを奏でる竹田城跡。春なら桜舞う城跡へぜひ足を運んでほしい。

協力・和田山町教育委員会・産業課

*
ショーで、会いましょー。



乞うご期待!
シーランドスタジアムに、
セイウチ登場!!

Sealand Stadium

城崎マリンワールド

<http://marineworld.hiyoriyama.co.jp>
兵庫県豊岡市瀬戸1090 ● tel.0796-28-2300